大津波に呑み込まれた末崎町の細浦魚市場＝11日午後３時28分

東北地方太平洋地震

黒い海 沿岸襲う

気仙で死者200人超す

11日午後2時46分ごろ、東北の太平洋沿岸で国内観測史上最大となるマグニチュード（M）8・8の巨大地震があり、大船渡で震度6弱の激震が走った。気象庁は本県を含む太平洋沿岸に大津波警報を発令。この地震による大津波が30分後に三陸沿岸に押し寄せ、気仙両市で壊滅的打撃を受けた。12日午後6時現在、200人以上の死亡を確認。陸前高田市では行方不明者が多数出ている。依然、電気、水道、電話などのライフラインは気仙全域で復旧の見通しが立たず、余震も断続的に続いており、住民の不安と疲れがピークに達している。

気象庁によると、地震の震源は宮城県牡鹿半島の東南東120㌔付近。地震の規模を示すM8・8は、地震の観測が始まった明治以降、国内では最大となる。

この巨大地震を受けて同庁は同日午後2時50分、太平洋沿岸に大津波警報を発令した。本県に同警報が出されたのは、昨年2月のチリ大地震津波以来2回目。

この地震の影響で、気仙沿岸に大津波が来襲。大船渡湾口防波堤も崩壊。何度も波が押し引きを繰り返し、沿岸漁港や建物などが一気に濁流に押し流された。

地形が狭まる湾奥部には10㍍以上の津波が荒れ狂った。陸前高田市では、沿岸部のほぼ全域が水没し壊滅状態。逃げ遅れた多くの市民が津波に巻き込まれた。

余震も頻繁に続き、建物の倒壊流出や人的被害も甚大。午後2時現在、大船渡市で174人、陸前高田市で28人の合わせて202人の死亡が確認された。多くの家屋が土砂に埋まった陸前高田市を中心に行方不明者も続出している。

高台に逃れた人も、目の前に広がる悪夢の光景になすすべもなくただ呆然と見つめるだけ。ビルの屋上ではヘリコプターの救出劇も。12日は自衛隊も出動し、道路の復旧を急いだ。隣県のレスキュー隊、住田町消防団なども支援に動いた。

地震発生後は、電話もつながりにくくなり、家族や知人の安否を気遣う人も依然多い。大津波警報は、同日午後8時20分に津波警報に切り替わったが、避難所に身を寄せていた住民らも不安な2日目の夜を過ごした。

大船渡市によると12日午後4時30分現在で、市内での死者は174人。市で身元を確認しているのは、コンノマルコさん（立根町）ホンダコウさん（大船渡町）ホンダハルヨさん（同）スガワラサチコさん（末崎町）の4人。

また、大船渡病院で死亡が確認され、立根町の安養寺に遺体が安置されているのは、サトウゲンゾウさん（大船渡町）ササキトヨコさん（三陸町綾里）スズキモリオさん（同越喜来）ニイヌマタカヘさん（大船渡町）ウエキモリヘイさん（不明）の5人。

死者の地区別内訳を見ると、末崎9人、大船渡7人、赤崎36人、蛸ノ浦5人、盛4人、立根1人、越喜来100人、綾里2人、吉浜3人、不明7人となっている。

また、行方不明者は末崎1人、大船渡10人、赤崎10人、蛸ノ浦5人、越喜来100人、綾里19人、吉浜3人。住宅の全壊・半壊は市内で2556世帯となっているが、今後さらに増える可能性がある。一部損壊や床上・床下浸水の戸数は分かっていない。

小中学生の安否では、大船渡北小児童1人、赤崎小児童7人が不明となっている。大船渡中では全校生徒のうち、33人の無事がまだ確認できていないという。市内全小中学校の児童生徒は14日まで自宅待機措置となる。

介護福祉法人・典人会では、特別養護老人ホーム・グループホーム「ひまわり」、気仙デイサービスセンター、赤崎デイサービスセンター、小規模多機能ホーム「平」、グループホーム・小規模多機能ホーム「後の入」の各利用者全員の無事を確認している。

避難所には市内52施設に計6768人が利用。末崎町の三十刈公民館では一般観光客が、同町の碁石公民館には観光バスの乗客が含まれている。猪川町の大船渡高校は生徒205人、一般住民100人が利用している。

これらの施設にはおにぎりや水などの配給が行われているが、調理が間に合わない状況が続いている。日頃市町内にある消防施設での調理や、立根、猪川両小学校で炊きだしを行い、なるべく1日に複数回配布できるよう努めている。

市役所では希望者に対し、13日も乳児用粉ミルクと紙おむつの配布を行う。事業所や団体などからの寄付があれば、朝、昼、夕の食事時間帯に合わせて配ることにしている。市役所内にある生協も、同日の日中時間帯は営業する方針。

12日には600人近い自衛隊員のほか、他県から派遣された警察官らが復旧活動にあたった。国道45号のうち、大船渡町にある商人橋付近の道路上に散乱した家屋や木材などを撤去した。ただ、津波観測が続いているため低地での作業には慎重を期しており、13日以降も続く予定。

国道45号を優先的に行い、以後大船渡町からのアクセスが難しい末崎町、赤崎町の主要地方道に着手する予定。合わせて、行方不明者の救助活動にも全力を注ぐ。

沿岸部では漁港付近に係留されている漁船や養殖施設のほか、三陸町越喜来の三陸畜養センターは滅失する被害に遭った。市による農林水産被害は12億4円以上になると試算している。また、応急仮設住宅の設置に向け、県と協議を行った。

また、3階建ての市庁舎が冠水被害に遭った陸前高田市。大津波襲来から一夜明けた12日午前7時すぎ、高田町の市給食センターに災害対策本部を立ち上げ、避難者の対応や情報収集にあたった。

市によると、同日午後2時45分現在、市民らから情報提供があった安否不明者は約220人。遺体安置も各地で始まっている。

学校施設では、全員の無事を確認できたのは竹駒小。その他各校の動向把握は難航しており、市では市民らの情報提供を求めている。

学校や地域公民館、福祉施設など、計47カ所に5889人が避難。弁当を配布する際に住所氏名などを記入するチェックシートを配り、安否確認につなげる。各施設ともミルクや紙おむつ、生理用品などが不足しており、厳しい環境下で身を寄せている。

市内には自衛隊や東京消防庁の派遣隊員が到着。戸羽太市長は「今はできることをやるしかない。人命救助は自衛隊員らにお願いし、市では避難者のケアや食料・暖房確保に全力を傾ける」と話す。

主要地方道大船渡広田陸前高田線が通行止めとなるなど、依然として広田半島の孤立状態が続く。気仙川に架かる気仙大橋、姉歯橋はともに落橋し、気仙町から高田町への移動が困難になっている。

12日正午現在、本社で把握している竹駒町内の行方不明者は次の通り。

▽下沢＝武田多津子、千葉育子、鈴木憲雄、佐藤典子、菅沼シヨウコ、戸刺聡美、島倉久彦・トクミ、松野浩二、上部早苗、佐々木誠士、上部勲・孝子、菅野正孝、小松弘文、紺野智文・洋子、上部拓也・セツ子、佐々木ヤスヒロ・満寿子

▽滝の里＝菅原実・実黄子、松野友香（大船渡デイサービス）、及川賢治・正子、對馬清隆（中央公民館勤務）、村上弘行（水沢）、鶴嶋とし子（かわむら勤務）、松野輝男・啓子、吉野香（気仙沼勤務）、高橋伝吉・信

▽細根沢＝菅野正治郎・泰子、村上彦三郎、佐藤一夫、佐藤キワ子、大坂辰男、佐々木政見、吉田安里、吉田真悠子、吉田恭子、貝山キヨミ（気仙町字町裏）

▽仲の沢＝大坂幹夫、大坂淳子、清水久也、三宮真美、大坂浩子、門口成美、鈴木安雄、鈴木喜美子、松坂浩美、大坂キヨシ

黒煙を上げる大船渡町の旧木工団地内の事業所＝12日８時12分

浸水壊滅した米崎町の住宅地の捜索活動に向かう消防職員ら＝12日午後２時20分

東海新報

発行所
㈱東海新報社
〒022-0002 大船渡市大船渡町字鷹頭9-1
電話番号 0192-27-1000(代)
ファクシミリ 0192-27-2154
振替口座 02300-9-188

©東海新報社

東海新報Web
http://www.tohkaishimpo.com/

きょうの紙面

黒い海の恐怖、気仙両市に甚大な被害……1面
自治体の対応は、安否確認と避難者名簿…2・3面
目を覆う巨大地震・大津波の惨状に驚愕……4面

本紙は、11日（金）に発生した東北地方太平洋沖地震による大津波警報発令に伴い、12日（土）に号外、13日（日）は4ページ立て新聞を発行しました。休刊日の変更は行わず、15日（火）の新聞を発行します。

東海新報社